

2022 年度 事業計画書

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

東京都中央区築地 3 丁目 11 番 6 号

(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

I. 事業方針

本会は、わが国におけるモーターサイクルスポーツを統轄し代表する団体として、モーターサイクルスポーツの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与する目的を達成するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

1. 本年度の重要項目

新型コロナウイルス感染の再拡大により、本年 1 月に一部地域にまん延防止措置が発出され、今期も影響を受けることが想定される。今後も感染は拡大期と沈静期を繰り返すことと思われるが、ワクチン追加接種の効果により事態が改善して行くことを期待し、今期も競技会の実施については国や地方自治体の指針や状況を確認し会場での感染防止対策を実行し事業を進める。

1) カーボンニュートラルへの取り組み

- ・ 国際社会がカーボンニュートラルの方向に急激に舵を切っていることに伴い、四輪/二輪業界、またレースの世界においても、早急な対応を行う必要がある。
- ・ 国内 4 輪レースはスーパーフォーミュラ・スーパーGT ともに代替燃料を使用する方向を発表しており、FIM も MotoGP の代替燃料移行、世界 TR の電動車受け入れなど発表している。
- ・ MFJ においても来年から各カテゴリで電動バイクや代替燃料車両が参加可能な規則整備を進める。
- ・ 国内 4 社と本件に特化した会議体 (MSMA-J) を外部組織として 4 月 20 日設立、具体的対策の検討に入り、自工会と連携し、早期の発信を目指す。

2) 全日本選手権のシリーズ管理と露出強化

- ・ 昨年全日本モトクロス選手権シリーズ、全日本トライアル選手権シリーズのシリーズ管理を株式会社モトスポーツプロモーションに業務委託し、大会運営の平準化に一定の効果を得られたことから今期も継続する。
- ・ 全日本ロードレース選手権はシリーズ管理組織が無いが、各主催者と協議し、シリーズとして一体感を出せる施策を協議し実施する。
シリーズとしてのバリューを向上する為には、シリーズ全体管理 (エントラント管理、映像管理、広報マーケティング) を担える外部組織が必要であり、早期設立に向け検討中。また、シリーズの中でバリューが高い SF との 2&4 レースのパッケージをカーボンニュートラル施策やデジタル映像技術など JRP と連動し、将来的なアジア進出も視野に発展させたい。
- ・ 全日本ロードレース選手権、全日本モトクロス選手権は Youtube ライブ動画配信の内容を向上させる。また、全日本ロードレースでは昨年試験的に導入した来場者向けの配信アプリで観客サービスを向上させる。

3) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ 地域の感染の状況に応じて国、地域行政、スポーツ庁等の指針に基づき、開催の可否を判断し、また開催する際は感染防止ガイドラインに基づき開催する。

II. 事業内容

1. 競技会

新型コロナウイルス感染症の影響は未知数であり、競技会は国や地方公共団体等の指針・制限、開催地区の実情に基づき開催可否を判断し、開催する場合は感染防止対策を講じ実施する。

3) 競技会公認・承認事業

規定に基づき全国の競技会・講習会を公認または承認する。(約400大会予定)

4) 主要競技会日程

(1) ロードレース

① 世界選手権／国際選手権競技会

全大会MFJ共催／スポーツ庁後援／観光庁後援

| 開催日 | 格式 | 大会名 | 会場 |
|-----------|---------|------------------|-----------------|
| 8月5日～7日 | 世界耐久選手権 | 鈴鹿8時間耐久レース 43回大会 | 鈴鹿サーキット |
| 8月12日～14日 | 国際選手権 | アジアロードレース選手権日本大会 | スポーツランドSUGO |
| 9月23日～25日 | 世界選手権 | MotogP日本グランプリ | ホンダモビリティリゾートもてぎ |

② 全日本選手権 (全8戦)

全大会MFJ共催／スポーツ庁後援／観光庁後援

| 2022 全日本日程 | | | 全日本 | | | | MFJ カップ |
|---------------|-----------------|--------------|-----|--------|-------|------|---------|
| | 開催日程 | 会場 | JSB | ST1000 | ST600 | GP-3 | JP250 |
| 第1戦 | 4月2日(土)～3日(日) | モビリティリゾートもてぎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第2戦 | 4月23日(土)～24日(日) | 鈴鹿2&4レース | ◎ | | | | |
| 第3戦 | 5月21日(土)～22日(日) | オートポリス2&4 | ◎ | | | | |
| 第4戦 | 6月4日(土)～5日(日) | スポーツランド SUGO | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 第5戦 | 6月26日(日) | 筑波サーキット | | | | ○ | ○ |
| 第6戦 | 8月27日(土)～28日(日) | オートポリス | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 第7戦 | 9月17日(土)～18日(日) | 岡山国際サーキット | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第8戦 | 11月5日(土)～6日(日) | MFJ-GP 鈴鹿 | ★ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ◎は2レース ★は3レース | | 開催数 | 13 | 6 | 6 | 6 | 6 |

・ JSB クラス年間チャンピオンには『文部科学大臣杯』を授与。

・ ST1000/JP250 はダンロップ社とのワンメイクタイヤ契約、ST600 はブリヂストン社とのワンメイクタイヤ契約

(2) モトクロス

① D.I.D 全日本選手権 (全 7 戦) MFJ グランプリはスポーツ庁後援/観光庁後援

| | 日程 | 会場 | | 日程 | 会場 |
|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 第 1 戦 九州 | 4 月 9-10 日 | HSR 九州 | 第 5 戦 九州 | 10 月 8-9 日 | HSR 九州 |
| 第 2 戦 関東 | 5 月 14- 15 日 | オホトビレッジ | 第 6 戦 関東 | 10 月 29-30 日 | オホトビレッジ |
| 第 3 戦 東北 | 7 月 16-17 日 | スピードランド SUGO | 第 7 戦 MFJ-GP | 11 月 12-13 日 | スピードランド SUGO |
| 第 4 戦 近畿 | 9 月 10-11 日 | 名阪スピードランド | | | |

・全日本選手権シリーズ冠協賛社：大同工業株式会社

② モトクロス全国大会 (MFJ 共催。スポーツ庁後援・観光庁後援)

開催月日：9 月 24 日～25 日 開催場所：三重県・いなべモータースポーツランド

内容：シニア・国内 A/B 級の全国選抜大会

(3) トライアル

① 世界選手権

5 月 21 日～22 日に開催を予定していたが海外選手の入国、物流の問題で本年も中止となった。

② 全日本選手権 (全 8 戦) 第 5 戦はスポーツ庁・観光庁後援

| | 日程 | 会場 | | 日程 | 会場 |
|-----------|----------|--------------|---------------|-----------|--------------|
| 第 1 戦 中部 | 4 月 3 日 | わさむきサーキット | 第 5 戦 City TR | 8 月 21 日 | 泉南ロングパーク |
| 第 2 戦 九州 | 4 月 24 日 | 矢谷渓谷トライアル場 | 第 6 戦 中国 | 9 月 4 日 | 灰塚ダムトライアルパーク |
| 第 3 戦 関東 | 6 月 5 日 | モビリティリゾートもてぎ | 第 7 戦 近畿 | 10 月 9 日 | 湯浅トライアルパーク |
| 第 4 戦 北海道 | 7 月 17 日 | わさむきサーキット | 第 8 戦 東北 | 10 月 30 日 | スピードランド SUGO |

※第 5 戦 City Trial Japan はスーパークラスのみ開催

③ トライアルグランプリチャンピオン大会

地方選手権国内日本一決定戦の全国大会を 11 月 13 日に中国地区・ヒロスポーツパークにて開催

(4) 全日本スノーモビル選手権 (全 6 戦)

以下 6 戦を予定したが新型コロナウイルスの感染拡大により全戦中止となった。

| | 日程 | 会場 | | 日程 | 会場 |
|-------|----------|----------|-------|--------------|------------------|
| 第 1 戦 | 2 月 6 日 | 北海道 (真狩) | 第 4 戦 | 3 月 6 日 | 新潟 (アライリゾート) |
| 第 2 戦 | 2 月 20 日 | 北海道 (美瑛) | 第 5 戦 | 3 月 12 日 (土) | 青森 (青い森スポーツセンター) |
| 第 3 戦 | 2 月 27 日 | 北海道 (土別) | 第 6 戦 | 3 月 13 日 (日) | |

(5) 全日本スーパーモト選手権 (全 6 戦)

| | 日程 | 会場 | | 日程 | 会場 |
|-------|----------|-------------|-------|-----------|-----------|
| 第 1 戦 | 4 月 17 日 | 茂原 (千葉) | 第 5 戦 | 9 月 18 日 | 名阪 (奈良) |
| 第 2 戦 | 5 月 15 日 | HSR 九州 (熊本) | 第 6 戦 | 10 月 16 日 | SUGO (宮城) |
| 第 3 戦 | 6 月 12 日 | 比内 (福島) | | | |
| 第 4 戦 | 8 月 21 日 | 美浜 (愛知) | | | |

(6) 全日本エンデューロ選手権

| | 日程 | 会場 |
|----------|----------|--------------------|
| 第1戦 中国 | 3月20日 | テージャスランチ(広島) |
| 第2戦 SUGO | 4月16~17日 | スポーツランド SUGO(宮城) |
| 第3戦 中日本 | 6月18~19日 | コスモスポーツランド(富山) |
| 第4戦 九州 | 7月31日 | 御所オートランド(熊本) |
| 第5戦 北海道 | 9月17-18日 | ビッグベア OHV パーク(北海道) |

2. 表彰・顕彰

1) 全日本選手権ランキング表彰式 (MFJ MOTO AWARDS 2022)

全日本選手権各種目のランキング上位3名ならびに海外選手権上位者等の表彰を行う
新型コロナ感染状況により、WEB配信とする。

開催日：2022年12月11日(日) ※予定

2) MFJ モーターサイクルスポーツ殿堂

殿堂評議員会にて殿堂顕彰者を選考予定。顕彰はランキング表彰式に併催

3. 普及活動

1) MFJ ロードレースアカデミー in MOTEGI 2022

ロードレースにおける年少者育成を目的とし以下のように開催する。

主催：(一財)日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：栃木県・ホンダモビリティリゾートもてぎ 期間：2022年4月~8月 年間10日間

校長：坂田和人 講師：小林龍太 他トップライダー起用

年間参加(18歳以下) 使用車両：CBR250R/CBR150R

受講者：150cc 7名 250cc：1名

2) 親子バイク祭り

2023年3月東京モーターサイクルショーで開催予定。

3) ツーリング

(一社)日本ライダーズフォーラムと共催にて「にっぽん応援ツーリング」2022を実施、ツーリングアプリを利用し、災害を受けた地域やコロナ禍で疲弊した観光地を訪れ、ボランティア活動や消費活動などを行った場合にポイントを与え、優秀者を表彰するなどの活動を継続する予定。

本年度より、全日本選手権会場をポイント獲得地に指定することを検討

4) ジムカーナ競技会

今期の開催は未定

5) 講習会/スクール

ロードレース以外の種目も普及と育成を目的とする講習会を検討する。

4. 代表選手派遣・認定

国別対抗世界選手権の代表チームの選抜と認定

トライアル デ ナシオン 9月24日(土)～25日(日) イタリア Monza

※日本代表チームの派遣は休止

モトクロス オブ ネーションズ 9月23日(土)～25日(日) USA Redbull MX Park

※JAPAN MX Project と協力し派遣に向け調整中

ISDE 8月29日(月)～9月3日(土) フランス Le Puy en Velay

※日本代表チームの派遣は休止。

5. 安全・環境対策

セーフティ委員会・メディカル部会・競技用装備部会・各種目委員会にて以下課題に取り組む

- 1) ロードレースコース規定に基づき競技施設の定期査察及び改修査察実施
- 2) 2022 規格に基づく装備品（ヘルメット/レーシングスーツ）の公認
- 3) 装備の推奨（マウスガード推奨、2020 年よりロードレース 18 歳以下にエアバッグ式プロテクション装着義務化）
- 5) 熱中症・脳震盪・新型コロナなどの対応と復帰プログラムの推進（全種目も取り組む）
- 6) 既往症や処方薬を記載するメディカルパスポートを競技会出場時に必携させ所持を確認する。
- 7) 全日本モトクロス全戦で医療用品の配備、AED 配備指示。
- 8) 事故再発防止を主眼とする事故調査・対策の検討
- 9) ロードレースにおけるサーキットアドバイザー制度の補助。（随時）
- 10) オフロード種目を中心に観客安全対策の強化。（マニュアルに基づきネット・コーステアプ・立ち入り禁止表示等強化）
- 11) インストラクター養成事業の実施。
- 12) 全日本選手権の運営平準化の為、各主催者の主要競技役員を集めシーズン前に WEB セミナーを開催する。（ロードレース・モトクロス等）
- 13) ドーピングコントロール
JADA の方針により今期は休止
- 14) 全日本選手権のシリーズを通して一貫した判定と安全指導の為セーフティオフィサー2 名を全戦に派遣する。（ロードレース）モトクロスはレースディレクション制度を取り4 名の主要スタッフを派遣する。
- 15) 公認・承認競技会全てを対象とする観客・関係者の賠償責任保険に加入する。

6. 国際対策

- 1) 国際モーターサイクリズム連盟（以下 FIM という）、FIM アジア協会への加盟、連絡、調整
- 2) F I M 総会・F I M アジア総会へ委員及び事務局員の派遣（またはリモートによる出席）

- 3) F I M規則の翻訳
- 4) F I M・FIM アジアライセンスの発行
- 5) FIM 世界選手権の運営に求められる主要競技役員の資格認定の為、F I M競技役員セミナーを開催、または派遣（またはリモートによる出席）。
- 6) 国内で開催される世界選手権・国際選手権等に関する連絡・調整・運営
- 7) その他国際交流の促進

7. 補助金事業

1) (公財) J K Aオートレース

ライセンス取得講習会 WEB 交付申請額：4,356,000 円

交付内定額：4,356,000 円

ライセンス講習会の開催が少なく、取得希望者に受講機会を充分提供できないことから、WEB 上で講習映像を視聴後、テストに合格したらライセンス発給資格が得られるシステムを構築し、時と場所を選ばず受講可能な環境を作る。

8. 情報発信活動

1) 広報活動

会員、メディア・販売店・一般に対し情報内容に応じて以下の媒体で発信する。

- ① MFJ オフィシャル HP は昨年全面リニューアルしたが、内容向上に努める。
- ② 全日本ロードは専用 HP を活用、全日本モトクロス/トライアル/エンデューロはシリーズ管理組織 Moto Sports Promotion にて専用 HP を作成しリンクする。
- ③ 2022 年 3 月のモーターサイクルショー等で主要競技と普及イベント告知を実施。
- ④ 広報部会活動
 - ・ 広報部会の構成の見直しを図る。
 - ・ 記者発表会/メディア懇談会を必要に応じて開催し連携を図り、告知協力を依頼する。
 - ・ 女性のモーターサイクルスポーツ参画応援サイト (Moto Ladies) 継続
- ⑤ 国内競技規則書は 2022 年度版より WEB に移行、今期の使用状況を精査し、利便性向上に努める。
- ⑥ 主要競技会の開催告知プレスリリースを定期的にメディアに発信する。

2) プロモーション・マーケティング事業

以下項目の活動を実施する。

(1) プロモーション事業

① 映像製作/露出 (GMP 社)

- ・ 全日本ロードレース・モトクロス全戦を収録し BS12 にてダイジェスト放映（毎月末土曜 21:30～22:00・番組名：tv moto ちゃんねる） 放映後ネット配信（タイトル：moto Channel）

- ・ Web 動画配信(You Tube)[タイトル : Moto Battle Live]で全日本ロードレース全戦のライブ動画配信（配信後アーカイブ）を実施する。今期から配信用のアナウンサーを統一し番組内容の向上を図る。
チャンネル登録者 5 万人を目標とする。（現在 4.6 万人）
- ・ アメリカの動画配信チャンネル AEMG 社に全日本 RD = JSB1000 と JMX = IA-1 の決勝レースの動画を提供、同社の有料サイト「RydeTV」にて同社で英語 MC を入れた編集した映像を USA/カナダ/メキシコ/UK/南アに配信する契約を締結
- ③ オフィシャルホームページ等広報（YUP 社）
 - ・ オフィシャルホームページ「Superbike.jp」にて情報発信
 - ・ メルマガ配信・写真等素材提供
 - ・ 2022 東京モーターサイクルショーでの PR 活動
- ④ ファンクラブの運営（ライディングハート社）
コロナの状況で流動的であることから今期も年間パスの販売は中止した。
- (2) MFJ 会員へのメリット供与
 - ・ 協力企業とのアライアンスによる会員メリットの提供
キズキレンタルサービス、ルートインホテルズ、ZuttoRide, パークアップ ビックカメラ JTB
- (3) 上記プロモーション事業費での活動に加え、露出を拡大するため、協賛を募り、以下事業を実施する。
 - ① 動画配信の強化（全日本モトクロス/ロードレース・GMP に業務委託）
 - ・ レースの配信の合間に選手/チームの紹介/インタビューなどで人を中心としたコンテンツを配信
 - ・ 上記によりレース間のインターバルのない番組的構成とする。
 - ・ RD/MX の配信ともシリーズ統一 MC を起用。※RD は会場 MC と共用の場合あり。
 - ・ 海外、特にアジアをターゲットに英語バージョンを設け配信する。（スポンサー獲得に重要）
 - ・ 各大会用告知映像を製作し MFJ/主催者/関係者の HP/SNS で展開する。
 - ② 観客用配信アプリの導入
昨年より来場者向けに多チャンネルを展開できる動画配信アプリ（Grooview）を導入、全日本ロードレースは継続する。（全日本モトクロスは通信環境等問題があり休止）
 - ・ レース映像/ライダー・チームインタビュー映像
 - ・ 観客向けイベント（トークショー・キャンギャルステージ等）の配信
 - ・ スポンサー企業の紹介
- (4) 販売会社代表で構成する MFJ モーターサイクルスポーツ普及対策部会にて販売店を通じて E-チケットの取り扱い、レース情報の提供などを実施する。※E チケットは用品量販店にも展開
その他レースと販売店の連携を企画する。

9. 組織

1) 地域管理

- ① MFJ 内に広域事務局を設地区専門部会、地方選手権等の管理を行う。

体制： ・ 本部事務局員： 3 名専任（1 名新規増員）

・ 二普協出向者： 1 名

・ 外部業務委託： 要員 3 名 計 6 名体制

※外部委託先： 株式会社小谷与商店

主な業務

- ・ 地区専門部会のサポート/連絡/管理
- ・ 地方選手権（MX/TR/ED）の管理
- ・ 地区情報の発信（MFJ-HP）

② 8地区の専門部会を登録し、大会数に応じた支援を行う

2) 中央組織

(1) 中央スポーツ委員会の方針に基づき、各委員会・部会を進行する。

10. 会員登録・公認事業

1) 会員登録事業

- ・ 個人会員の申請受付・登録・会員証発送作業を行う（WEB申請・郵送申請）
- ・ 特別会員・賛助会員・メディア会員の申請受付・登録作業を行う。

2) 競技用車両・部品・用品の公認事業

競技会の公平性・安全性を維持する為、規定に基づき所定の要件を満たした競技車両・部品・用品を公認する。

3) 競技施設の公認事業

競技施設の安全性を維持する為、規定に基づき所定の要件を満たした施設を公認。必要に応じて査察を実施する。

11. サービス事業（競技運営用備品・用品の販売等）

- ・ 主催者に対し競技運営に必要な備品・用品・テキスト等を製作し販売を行う
- ・ 公認用品製作／販売会社に製品に貼付する公認マークを販売する。
- ・ 規定に基づき、参加者の昇格申請、希望競技番号を管理する。

12. その他事業

(1) 諸会議の開催

MFJのスポーツ事業を円滑に推進するために必要に応じて諸会議を開催する。

- ・ 理事会（6月/12月/3月）・評議員会（3月/6月）
- ・ 中央スポーツ委員会・専門委員会・技術委員会・各種部会

(2) スポーツ安全保険

- ・ 会員のスポーツ安全保険加入管理業務を行う。
- ・ 受傷時の確認作業・保険会社への連絡等業務を行う。

以上